

放送大学通信

on air

オン・エア

no. 78

発行日 平成17年6月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

| | |
|---|----|
| 平成16年度放送大学学位記授与式 | 1 |
| 就任のあいさつ | 8 |
| 教授 宮本みち子 / 教授 住田正樹 / 教授 小野けい子 / 教授 草光俊雄 / 教授 中嶋士元也 / 教授 高木保興 / 教授 船津 衛 / 教授 松本忠夫 | |
| 平成17年度開設改訂科目紹介 | 12 |
| 研究室だより | 18 |
| 助教 原田順子 | |
| 学習センターの整備 | 18 |
| 茨城学習センターの新学舎紹介 茨城の新しい生涯学習と文化交流の中心に | |
| 教務のお知らせ | 19 |

平成16年度 放送大学学位記授与式



平成17年3月12日、平成16年度学位記授与式が東京ベイN.K.ホールにおいて挙行されました。当日は、文部科学省、総務省、NHKなどから多数の来賓を迎え、学部卒業生と大学院修了生あわせて、およそ1,300名が出席しました。学歌合唱、来賓紹介の後、平成17年3月卒業生ならびに修了生に対して、卒業証書・学位記の授与が行われ、学長告辞、文部科学大臣ならびに総務大臣からの祝辞に引き続き、卒業生・修了生総代による答辞で閉式となりました。学長告辞等の内容については次のとおりです。

学長告辞

放送大学長 丹保 憲仁

この平成16年度には、4,829名の方が教養学部を卒業されることとなりました。また大学院文化科学研究科の367名の方が修士課程を修了されました。今日ここに放送大学を代表して、課程

をめでたく修了された皆様に学士（教養）修士（学術）の学位記を、授与出来ますことを欣快に存じます。

公務ご多忙の中、中山文部科学大臣のご臨席を頂くことが出来ました。心より御礼申し上げます。

放送大学は開学以来21年の歴史を刻み、今日までに3万5000人



余の学士と、平成16年からの2年で711名の修士を世に送り出して参りました。

この大学では、学生が置かれた環境と自身の努力に応じてすべての学業を自律的に学びます。現在、20代から80代に至る10万人もの学生がこの大学で学んでおります。

学位を得るに至った学生は、自己の努力はもちろんのこと、ご家族・近隣の方々・職場の仲間のご支援を様々な形で受けてきたことと思います。ともすれば孤独になりがちな遠隔教育を、学び続けて今日のよき日を迎えられたことを、共に学んだ学習センターの仲間と慶び合って頂きたいと思えます。学習センター所長始めセンターの職員の支援も思い出してください。全学の教職員が皆様の成業を心から祝福いたしております。

「修士」となられた方は、大学院課程を遠隔教育システムで学びきるという新しい時代の学習を、自らの創意と努力で成し遂げられたわけですから、これからの高度生涯学習社会の先駆者として確かな手応えを感じていると思えます。

人が学ぼうとする目的は様々です。

その第一は、職業の力量を高め、生活の糧を得るための技術を学ぶことでしょう。多くの技術的実学がこれに相当します。

その第二は、「人の心や体を知る」、「社会を構成する仕組を知る」、「人が生きている地球環境などを知る」といった、この時代の日本に生きている自分の位置と状態を具に知ることでしょう。教養を学ぶといわれるものです。

この時代には、職業の力量を競争的に高め、より確かに社会を運用していくことが求められています。しかしながら、自らが存在しているこの時空間の状況を良く知ること、換言すれば人としての基礎的な教養を自学することによって始めて、職業的な経験・技術、生活の糧を獲得する技が「人の技」として的確に収まってくることに

なります。教養を学ぶことに競争はあり得ません。この大学には自らの、「修練と修養」が有るのみです。単純な相対的競争と違って、個々人に課された厳しい努力の要請です。

高位高官、ジャーナリズム、企業のリーダー、政治の枢要にある人、社会の著名人に、人としての大きな欠陥と不信を抱くことの少ないこの頃です。一般の会社員、教員、店員、公務員等の市井の人々にも、不信と無責任を感じることが少なくないこの頃です。立派な人もたくさんいます。しかしながら、「人としての修養・修練」を目指さなくなった現代の「経済・技術的社会的突出」と「人間教育の不十分」を思わずにはいられません。急がずに、不必要な競争をせずに、人の存在そのものを学ぶこの大学のような高等教育機関に、10万人もの人が学んでいることを邦家のために慶びたいと思えます。

科学の力を借りて、技術社会を造り、化石エネルギーを乱用といえるほどに多用して、この200年あまり人類は大膨張しました。西欧近代文明が世界を覆い、人類の少なからぬ部分がその繁栄を謳歌しました。

しかしながら、21世紀に入っただけの様々な状況は、200年続いた化石エネルギー基準の西欧近代の拡大と成長の時代に大きな転機が訪れていることを示しているように思えます。

20世紀世界の成長を支えた石油の産出量も2000年ころにピークを迎え、21世紀の末には貴重資源となり、現在のように気楽に使えなくなり、石油時代は終わると考えられます。

日本もこの2005年頃に人口が最大の1億2600万人に瞬間的に達し、以後急速に減じていくと予想されています。

我が国土の38万平方キロ弱の自然で自立できる日本人人口は5000万人を超えることは難しいと思えます。徳川鎖国の250年に、

太陽エネルギー基準の文明が大いに成熟したあげく、3000万人で飽和崩壊しました。それを打開すべく明治維新を展開し、日本を近代化・開放化し、西欧近代型文明の学習者として成功し、日本は世界の大国となりました。徳川時代は、世界最大で最長にわたる、閉鎖型グリーン社会を構成維持する大実験の歴史です。徳川時代の日本に北海道を加え、太陽エネルギー固定技術の進歩を加えても、5000万人というのがこの国土で自立できる無理のない数のように思われます。今の日本人のうち7000万人以上がこの国土の自然に過剰です。その中で、世界最大レベルの個人GDPを維持するために極端な努力が求められているのが今日の日本人です。

科学技術に誘導された近代社会、特に先進国といわれる国々では、豊かさや便利さの追求を個々の技術システムの並列的發展によった結果、社会を運転するためのエネルギー、水、その他の資源の消費量は20世紀の100年に一人当たり4倍にもなりました。そうして、人口が15億人から60億人に4倍にも増え、世界のエネルギー、水などの基本資源消費量が10倍を越えてしまいました。その結果、地球の温暖化や水不足、人口の都市集中、都市環境の劣化、森林の減少、農地の塩害や砂漠化などが顕在化してきて、近代科学技術文明による成長社会の維持が難しくなってきました。

分野性の強い科学技術が突出しひたすら成長を求めた近代社会を、調和のとれ節制の行き届いた、成熟した人類活動が展開する、これからの時代に導くためには、文化的素養と科学技術の共々の丁寧な学習が求められているように思えます。人類生存のための教養学が、総合化を目標にした諸学の主要な翼のひとつとして展開する時代の到来を思えます。我が国の中核的生涯学習機関である放送大学が求める現代教養学の核心は、持続可能な新しい文明を創り出すた

めの、人の道を求めての学問基礎の学習と、人の個体と環境事象の確かな理解と、未来を思う振る舞いを身に付けることなどであろうと思えます。

子孫に何を残し・何を残さないかを適切に選び取るために、深く学び、自分以外の者、とりわけ自分たちのDNAを次ぐ時代の者達に恥ずかしくない人としての振る舞いをしたいものと思えます。この大学が目指したい教養学の神髄です。この数10年の日本社会は、自分のことだけを考えて、過ごしてきたように思われてなりません。

最後に、この大学の学びの系譜に、確かな一歩を記した皆様のご成業を心よりお祝い申し上げ、これからのためめ研鑽を期待して、学長の告辞と致します。

文部科学大臣祝辞

文部科学大臣 中山 成彬



本日、放送大学教養学部を卒業された皆様、ならびに大学院文化科学研究科を修了された皆様、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

放送大学は、放送を通じて広く大学教育を提供することを目的として設立された「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる大学ですが、卒業するのは、極めて難しい大学と言われております。皆様は、20歳代から80歳代まで非常に幅広い年代にわたり、また、

様々な職業やお立場の方々であると存じますが、本当に本日に至るまでには、お仕事や御家庭での家事などをこなす一方で、学習したいというひたむきな情熱と、学習を続けようとする並々ならぬ意志が必要であったと思われまふ。昨年末の世界的な学力テストの結果によりまして、今、日本では学力問題が話題となっておりますが、私は学力には三つあると考えております。一つは学んだ知識量という学力、二つ目はこの学んだ知識を使って実生活に活用する応用力としての学力、三つ目は学ぼうとする意欲、意志力であり、この三番目が一番大事だと思っております。まさに皆様方は、学ぼうとする意欲、意志力という本当の学力を身につけた方々であるということで、皆様のこれまでの御努力に改めて敬意を表します。

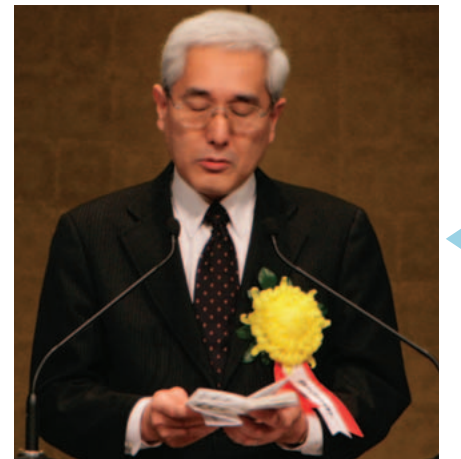
また、皆様の御家族や御友人の方々、職場の方々をはじめとする周囲の方々も、皆様を暖かく支えてこられたことと思います。本日の御支援に、私からも感謝を申し上げますとともに、あわせて心からお慶びを申し上げます。

新しい時代の国づくりの基盤となるのは「人」であり、天然資源に恵まれない我が国にとっては人材こそが資源であります。これからの社会においては、学校教育で培われる基盤の上に立って、生涯にわたり絶えず新しい知識や技術を習得し、そこで得られた知識を有効に活用しながら創造力をはぐくんでいくこと、つまり「生涯学習」ということが誠に重要であります。生涯学習の中核的機関である放送大学は、こうした時代の要請に対応した大学教育を広く提供しており、今後も国民の高度かつ多様な学習ニーズに応えて一層発展されるよう期待しております。

皆様にとっては、本日が新たな旅立ちの日でもあります。さきほど学歌を聞いておりまして、生きることが学ぶこと、生きることが知ること、知ることが喜びという文言がございました。本当にその

とおりだとあらためて感銘を深くしたわけですが、皆様方におかれましては、これまで放送大学において学ばれた知識を十分に生かし、各方面で一層のご活躍をされるとともに、放送大学の卒業生ならびに修了生としての誇りを持って、さらに深く、広範な「生涯学習」を続けられますようご期待申し上げます。

最後に、丹保学長をはじめとする放送大学関係者の皆様方の御尽力に深く敬意を表します。そして本日まで熱心な御指導に感謝を申し上げ、あわせて放送大学の今後益々の御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



総務大臣祝辞

総務大臣 麻生 太郎

大臣官房審議官 小笠原 倫明（代読）
本日、ここに平成16年度放送大学学位記授与式が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

学部卒業生の皆様、御卒業誠におめでとうございます。

修士課程修了生の皆様、御修了誠におめでとうございます。

御入学以来、学業を全うするため、日々の御努力を積み重ね、本日、晴れてこの喜ばしい日を迎えられましたことに、心から敬意を表します。

皆様におかれましては、年齢層も幅広く、また、職業をお持ちの

方も多いとっておりますが、放送というメディアを活用してこれまで取り組んでこられた学習の成果を生かして、社会の各分野での更なる御活躍を期待しております。

放送大学学園は、当初、いわゆる特殊法人として設立され、現在では、特別な学校法人として、大学教育の機会に対する広範な国民の要請にこたえとともに、大学教育のための放送の普及発達を図るという極めて大きな使命を担っております。

放送大学も、昨年、創立20年の節目を迎えたところであり、あらためて、国民の負託に応えるべく御尽力をいただきたいと思えます。

さて、地上デジタル放送についてであります。学園におかれましても、平成18年から、地上デジタル放送を開始すべく準備が進められていると聞いておりますが、デジタル放送の開始に向けた取組や、番組への字幕の付与などの取組によって、学園の放送を一層魅力的なものにさせていただきたいと考えております。

また、先に国会に提出され、審議中であります平成17年度の政府予算案においても、学園の放送施設・設備の本格的な整備に係る経費が盛り込まれており、いよいよデジタル化に向けた準備が大きく前進するものと期待しております。

御案内のとおり、地上デジタル放送は、高品質な映像・音声、データ放送、双方向サービスなどを可能とするものであり、各家庭に身近で簡便なICT基盤を形成し、国民生活に密着したメディアとして国民生活を一層豊かにするものであります。

中でも、教育・教養分野については、ハイビジョンによる臨場感あふれる高画質・高音質の教育・教養番組の視聴が可能になるとともに、データ放送により付加価値の高い学習関連情報を入手できるようになり、また、双方向サービ

スの活用が可能になることによって、放送番組の理解を一層深めることができるようになります。

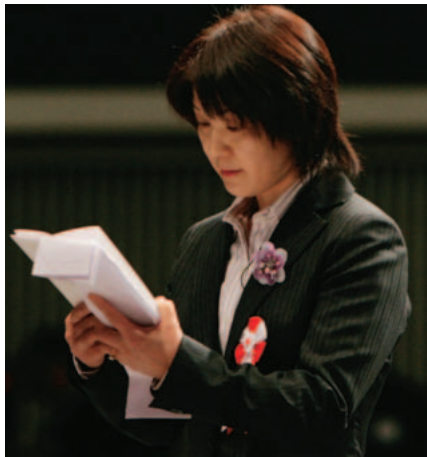
学園におかれましても、デジタル化のメリットを生かした放送による教育の充実を通じ、設立の目的である「大学教育のための放送の普及発達」に努めていただき、さらなる発展を遂げられますよう期待している次第であります。

卒業生及び修了生の皆様におかれましても、今後とも、時には放送大学学園の放送にチャンネルを合わせていただき、卒業生・修了生の視点から学園を御支援くださるようお願いいたします。

最後になりましたが、本日御卒業、御修了される皆様の一層の御活躍と、御臨席の皆様の御健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

答辞

卒業生総代 人間の探究
小川 宏美



本日は、私たち卒業生のために、このように盛大な式典を挙げていただきましたことを、学長先生はじめ、諸先生方並びに職員の皆様に、心より感謝申し上げます。また、大変お忙しい中ご臨席いただき、心のコもったご祝辞をくださいましたご来賓の皆様へ、厚く御礼申し上げます。

きょうの日を祝う卒業生は全国各地にまたがり、入学の動機も、

学習環境も、年齢や職業といった社会的立場も、すべてが多様性にわたっております。その誰にも共通していることは「学ぶ意欲」の大きさです。学生としてだけでなく、いくつもの役割を担いながら勉学に励まれた多くの方々とともに、晴れて卒業の日を迎えられたことをたいへんうれしく思います。

私は高校を卒業後、編集者養成の専門学校へ進み、社会人となって出版関係の仕事をしております。仕事はやりがいがあり、とても充実したものでしたが、私の中に「大学へ進学しなかったこと」がアンフィニッシュド・ビジネス、やり残した思いとして残っていることを感じていました。あるとき、娘を出産した際にお世話になった助産婦さんが放送大学で勉強されたことを知り、その翌年の平成5年度から放送大学の学生となりました。

入学した年はあらゆる講義に興味湧いて、多方面の講義を受け、4年で卒業できるペースで単位を取りました。ところが、2年目の前期試験直前に第2子を出産し、その後は学習のスピードをセーブせざるを得なくなりました。単位認定試験当日に子どもが発熱したり、仕事の都合で面接授業をキャンセルしたり、転職や忙しさのあまり休学を考えたこともありました。けれども、放送大学の在学年限が10年であることを再確認し、マイペースで何年かかってもいいから学生生活を充分楽しみながら、卒業しようと思うようになりました。

ようやく卒業研究を履修できることになった私は、環境問題をテーマにした卒業研究に取り組みたいと考え、芸術学の放送講義のほかに、地球規模の環境問題をテーマとした比較思想の放送講義をされていた先生のゼミ形式の卒業研究指導に参加しました。学問的に厳しくも温かい先生のご指導のもと、「環境の世紀に希求される思想について」という大それたテ

マで、私たちの世界観の変容について研究していきました。

ご承知のように、地球規模での環境破壊の現状は刻一刻と悪化をたどり、危機感が増すばかりです。そこで希求される思想とは、私たちの世界観の変容であり、新しい考え方があらゆる垣根を超えて、さまざまな形や方法を取りながら潮流をつくりつつある それを論文にするのは至難の業でした。今思えば私が何も知らなかったからこそ、このような大それた研究課題に取り組めたのだと思います。困難な道のりではありましたが、私にとって卒業研究は、自分の世界観を見つめなおし、私自身が「ここにいること」を確認するすばらしい機会となりました。先生の熱心なご指導に心から感謝申し上げます。また、ゼミの友人たちのなかには、遠方の家族介護に奔走しながら研究に精を出す方や、研究課題の芸術作品を実際に見るためにヨーロッパまで出かけた方もいらっしゃいました。つねに前向きに努力している学友たちの姿に励まされ、私は何度自分を奮いたたせたことでしょうか。ともに学習に励んできた仲間たちにも感謝の意を表したいと思えます。

最後になりましたが、いつも熱心にご指導くださいました諸先生方、事務手続きなどでお世話になりました職員の皆様、支えてくれた友人・知人、そして家族に心より感謝するとともに、放送大学の益々のご発展と、ご臨席の皆様のご健康、ご活躍をお祈り申し上げます、答辞といたします。

答辞

大学院修了生総代
総合文化プログラム
環境システム科学群
大森 直樹

本日をもって我々大学院修了生は、晴れ晴れしく旅立ちの日を迎えることとなりました。このよう

に盛大な学位記授与式を迎えられるのも、教職員の皆様方ならびに関係各位の皆様方による、並々ならぬ御尽力があったのことに深く感謝いたしております。御来賓の皆様方におかれましては、御多忙中にもかかわらず、多数の御列席と御祝辞を賜りました。ここに修了生を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。また、学長先生からは、我々の新たな門出を祝福していただき、素晴らしい御訓辞を賜り、修了生一同、誠に感銘いたしました。



私は、大学病院で診療放射線技師をしております。診療放射線技師の研究領域は、主に、医学・工学系の内容が大半を占めております。しかし、診療放射線技師が医療人としての専門性を発揮し、患者中心の医療を実践するためには、人間科学領域の研究が必要であると感じ始めたのは、今から8年前のことでした。1年後、夜間の大学に入学し、働きながら社会学や心理学の基礎を学びました。卒業後、さらに夜間の大学院へ入学し、心理学の勉強を続けたいと思いました。しかし、あと2年もの間、業務終了後に毎日通学することを考えると、肉体的にも精神的にも限界を感じました。そんな時、通信制の放送大学に大学院があることを知り、ここでなら仕事と両立しながらも、勉強や修士論文研究が続けできると感激したのを思い出します。

私の修士論文のテーマは「MRI

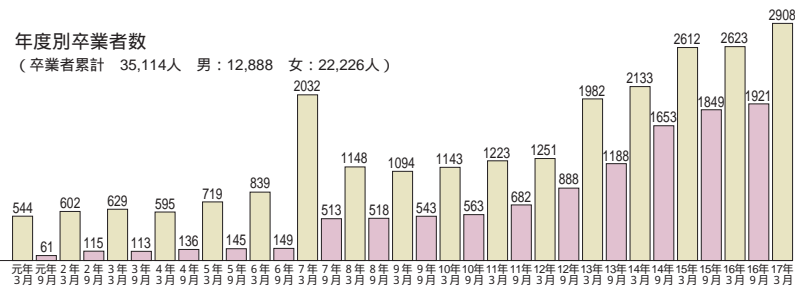
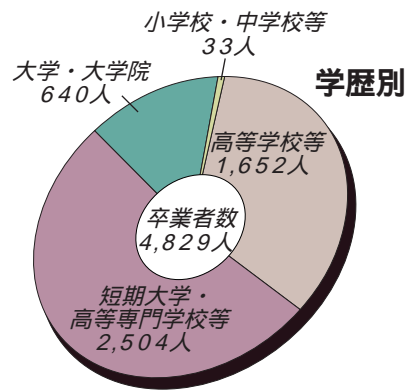
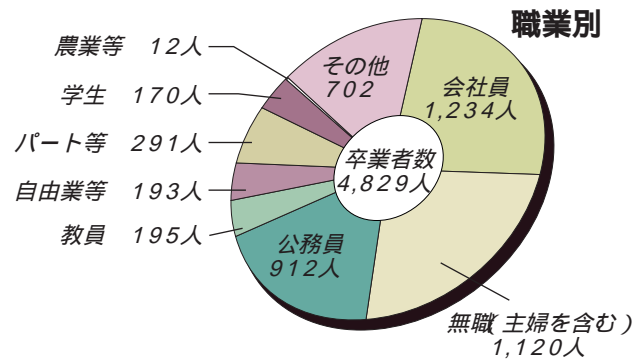
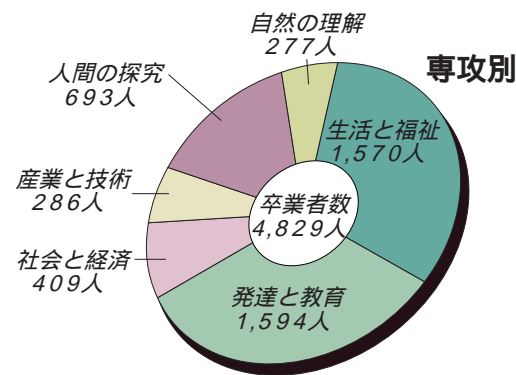
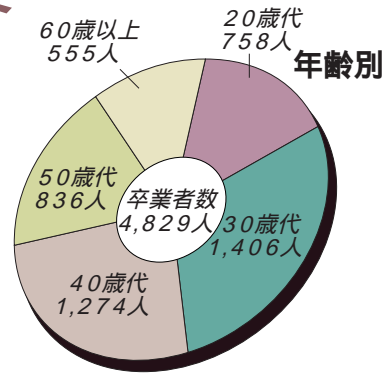
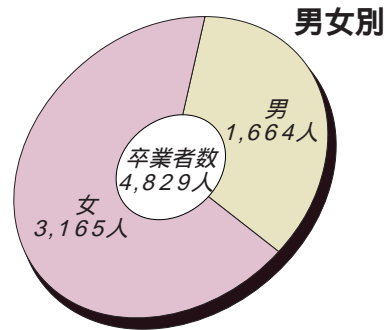
被検者における状態不安と認知特性との影響関係」です。MRI検査は、高レベルな電磁界が発生する環境下で実施されますので、被検者には、安全確保に必要な情報が事前呈示されます。しかし、社会心理学の理論に従うと、呈示情報に対する受け止め方次第では、被検者に状態不安を喚起することが予測されました。この仮説を実証的に検証することで、今まで見過ごされてきた被検者の心理的負担を明確化し、適切な不安緩和手続きの必要性を主張しようと考え、研究をおこないました。研究で最も苦心したところは、所属する大学病院の倫理委員会における審査と、研究用に開発した独自尺度の構成であったと思います。いずれも初めてのことでしたが、今後、研究活動をおこなう上で、非常に意義のある経験をいたしました。

私の所属した認知行動科学ゼミでは、インターネットを利用した掲示板とメールソフトにより、指導教員の先生方に、大変熱心な御指導をいただきました。また、約3ヶ月置きに千葉の本部に集まり、研究の進行状況を報告し、白熱した議論を交わしました。他のゼミにおきましても、放送大学大学院の特徴を十分に生かした方法で、実り多い研究指導をいただいたと伺っております。

今後は、放送大学大学院で学んだことを基に、検査技術者と被検者とのコミュニケーション研究が、診療放射線技師の研究領域として認知されるよう努力していく覚悟であります。

最後になりましたが、熱心に御教授いただいた諸先生方、陰ながら支えていただいた職員の皆様、ならびに本日御臨席いただきました皆様方の御多幸をお祈りいたしますと共に、放送大学大学院の益々の発展を願い、答辞の言葉とさせていただきます。

平成16年度卒業生・修了生概要



専攻別卒業生数累計 [単位: 人]

| 区分 | 生活と福祉 | 発達と教育 | 社会と経済 | 産業と技術 | 人間の探究 | 自然の理解 | 計 |
|----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 男 | 2,103 | 1,937 | 2,341 | 2,314 | 2,266 | 1,927 | 12,888 |
| 女 | 6,845 | 8,785 | 1,235 | 381 | 4,195 | 785 | 22,226 |
| 計 | 8,948 | 10,722 | 3,576 | 2,695 | 6,461 | 2,712 | 35,114 |

平成16年度卒業生数 [単位: 人]

| | 生活と福祉 | 発達と教育 | 社会と経済 | 産業と技術 | 人間の探究 | 自然の理解 | 総計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平成16年9月 | 634 | 651 | 168 | 128 | 250 | 90 | 1,921 |
| 平成17年3月 | 936 | 943 | 241 | 158 | 443 | 187 | 2,908 |

平成16年度大学院修了生数 [単位: 人]

| | 総合文化プログラム(文化情報科学群) | 総合文化プログラム(環境システム科学群) | 政策経営プログラム | 教育開発プログラム | 臨床心理プログラム | 総計 |
|---------|--------------------|----------------------|-----------|-----------|-----------|-----|
| 平成16年9月 | 2 | 3 | 3 | 2 | 0 | 10 |
| 平成17年3月 | 92 | 84 | 95 | 54 | 32 | 357 |

卒業生・修了生からひとこと

一度は諦めた通信教育でしたが、放送大学はスクーリングが土日の面接授業で仕事を休まずに済んだ事で卒業までたどり着くことができました。迷っている方、放送大学ならきっと卒業できます。チャレンジしてみてください。

生活と福祉 林 鎮代

50年振りに卒業式に出席した。50年前の卒業の時には、これで本当に別れになるのだという感傷があったが、今回はちがう。別のコースに継続入学するから。そして「生涯勉強、生涯青春」あいだみつおの言葉を実践するから。

生活と福祉 齋藤好夫

自分の母親世代のオバサマと白髪のオジサマ方の、らんらんとした眼の輝き！生涯学習に生きる喜びをみいだしていらっしゃるのでしょう。銀杏並木と芝生と女子大生を求む方には不向きですがそれ以外なら得られます。

生活と福祉 櫻村尚歩

当初は「大卒」という学歴だけが欲しくて入学しましたが、多くの仲間や先生方との交流の中で学ぶことの楽しさ、学んだことを地域に還元していく生き様を知りました。今年4月より大学院の修士全生として更に学び続けます。

発達と教育 岩本繁雄

私は韓国で生まれ育って日本にきました。私にとってこの4年間は大変でした。文字・言葉の大きさを身を持って知らされました。放送授業では、音声だけでは意味がわからないので、共に印刷教材を読み、ビデオに取った授業を見ます。生涯学習の一環である放送大学が、今後ともだれもが学習できる場であることを願っています。

発達と教育 鳩山京美

平成16年9月で卒業し、再入学しました。しかし、今は中越地震の復旧作業で一時中断です。中山間地にはまだ2~3mの雪が残っています。春からまた忙しくなります。一段落したら、また学習を続けたいと思っています。

社会と経済 廣瀬佳史

放送教材は、自宅では録画していてもなかなか見られない事もあった。そんな時は、学習センターに行って集中的にビデオを見て学習した。すると学習センターには、同じ放送大学の仲間がいて、『やる気』をもらえた。

産業と技術 藤田 馨

目標としていた4年での卒業ができたことが何よりもうれしい。しかし、少し淋しい気がするのも不思議。面接授業でお会いする学友たちともっと交流できたら良かったのにと少し心残り。でも本当に清々しい気分！

産業と技術 土方広之

学位記授与式の会場に来て、改めて感激に浸っています。それなりの向上心と努力が伴ってこの荣誉に感慨深いものがあります。皆様是非頑張って頂いてこの感激を味わってください。65歳の誕生日と重なりました。

人間の探究 木村勝紀

サラリーマン生活の終了と共に始めた放送大学ですが、新しい知識に出会う楽しさ、新鮮な刺激は時に感動すら覚えました。卒業で一区切りつけますが学ぶ楽しさを覚えたので今後も色々な形で続けたいと思っています。

人間の探究 野津基義

定年後、放送大学に入学して3年次に編入学し、卒業して平成16年度学位記授与式に出席し、45年前の青春の学生時代を思い出しました。学位記授与式に出席された多くの方は中高年と思

われるが肌のツヤなど若人である様な感銘を受けました。

自然の理解 中島 坦

要望ですが「自然の理解専攻」を「自然科学系」にして欲しいです。なぜなら、私の場合、その後国立天文台などに学習研究にお世話になっておりますが、放送大学で学んだ内容で十分発揮できております。他大学、他の研究機関で受け入れてくださるとき、そのほうが都合が良いように思います。

自然の理解 正實定文

親から「おまえが大学院に受かるとは、世の中わかんないねえ」とツッコまれつづけた2年間でした。でもこの2年で一回りも二回りも、人間として成長したことを我身で感じています。

総合文化 永井秀作

地方に住む者にとって、高度な専門知識を学習する場はないものか…。出会ったのが、本大学院でした。多忙な生活の中、多くの苦労がありましたが、多くの関係者、そして家族の理解があって修了することができました。

政策経営 秋山仁志

今修了のときを迎えて、二つのことを思い出します。ひとつは一週間単位の面接授業でアフター5で同期生と親交を深めたこと、ふたつめは、その際の役割行動を果たし互いに感謝し合ったことです。万物に多謝。

臨床心理 粟飯原良造

(敬称略)

就任のあはつ



若者・世代から現代社会をみる

生活と福祉 教授 宮本 みち子
総合文化プログラム

千葉大学から放送大学に参りました。千葉市には25年以上住んでいますが、生まれは長野県松本市です。私の研究分野は青年社会学、家族社会学、生活経営論です。現代社会に生きる人々が、何を思い何をめざし、どんなライフスタイルで暮らしているのか、またそこにどんな問題があり何が必要とされている

のかを検討しています。これらの問題は当然、社会経済構造や文化的背景と関係しますから、日本に固有の特徴があると同時に、国を超えた共通性もあるでしょう。またポスト工業化、情報化、人口減少化などのトレンドは重要な環境条件になっていますので、それらにも関心を払っています。とくに私がこの10年余り重点的に研究してきたのは、若者が青年期から成人期へと移行していくプロセスや若者の社会的地位がどのように変化し、そこにどのような現象が生じているのかというテーマで、日本国内で社会調査を続け

てきました。国外に関しては、イギリス、スウェーデンを中心にEUの若者の実態、および若者政策に関する研究を進めています。今年度の大学院開講科目『比較文化研究(05)～若者とジェンダー～』は、これらを踏まえて作ったものです。この科目を作るために、昨年はスウェーデン、イギリス、イタリアで現地口ケをしてきました。放送大学の学生のみなさんが、国際的視野で、しかも地域に根ざして、変容を遂げる人々の暮らしと環境に関心を寄せてくれることを期待しています。



子ども社会の確立に向けて

発達と教育 教授 住田 正樹
教育開発プログラム

2005年4月、教育文化論の担当として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいいたします。

私はこれまで発達社会学を中心に研究してきました。発達社会学は子どもの発達という現象に対して社会学的にアプローチしていく学問です。同じ子どもの発達を問題とする研究でも発達心理学はよく知られていますが、発達社会学というのは耳新

しいかも知れません。発達心理学は個体としての子どもに現れる身体的・精神的な変化を問題としますが、発達社会学は子どもの発達過程を社会的・文化的文脈との関連において問題とします。平たく言えば、子どもの発達過程を社会集団との関連において問題とします。子どもは、社会的・文化的文脈のうちに包まれつつも、直接的には所属している社会集団を媒介とすることによって、その社会的・文化的文脈の影響を受けつつ発達していくからです。

子どもの集団のなかでも、私はこれまで仲間集団に焦点を当てて研究をしてきました。仲間集団は、他の集団と違い、同世

代の子どもたちだけで構成され、しかも子どもたちが自発的に形成する集団です。その意味では仲間集団こそが「子ども社会」であり、そのなかでこそ子どもは社会的人間の基礎を形成していくのだと思っています。近年、さまざまな形の青少年期の問題が現れていますが、それはその前の子ども期(児童期)における仲間集団経験の乏しさ、「子ども社会」の喪失も一因ではないかと思っています。これから皆さんと一緒に「子ども社会」をはじめ子どもたちを巡る今日のさまざまな問題について論じ、勉強していきたいと思っています。



多様な教育の機会を

発達と教育 教授 小野 けい子
臨床心理プログラム

臨床心理学の小野でございます。どうぞよろしくお願いい申上げます。箱庭療法を中心に、描画や夢といったイメージを用いた心理療法を専門にしています。また、育児不安、摂食障害、DVといった今日における女性を取りまく問題についても、かかわっていたいと思っています。

す。長く大学の教員をしてまいりましたが、講義のほかに、大学の学生相談室での学生相談を担当してまいりましたし、大学病院の神経精神科外来での心理療法や、5年間中学のスクールカウンセラーも経験しました。

放送大学は、全国津々浦々に住む方々に、質の高い教育の機会をもたらすものであると思います。心理臨床の場で、学びたいけれど集団の場で学ぶことの苦手な方達と出会ってきましたので、多様な学習の機会を提供できる放送大学で働けること

を、とても嬉しく思っております。また、私自身長く地方に住み、病身の親や幼い子どもを抱えて、学会に出ることもままならない時期を過ごしたことがございます。地方に住む方々の中には、学習や研修への強い飢餓感をお持ちの方が多くいらっしゃると思いますので、是非そうした方々のお手伝いができればと思っています。生涯学習の視点からも、多様な方々に、理論に走るのではなく、体験に訴えて、納得していただけるような講義をしてゆきたいと思っています。



温故知新 興味を持って歴史を学ぶ

人間の探究 教授 草光 俊雄
総合文化プログラム

ひとは過去を振り向かないで、まっすぐ自分の信ずる道を進んでいきたいと願って生きていきます。くよくよしたり、いつまでも昔のことに拘泥するのは良くないと諭されますよね。それは一つの生き方としては間違っていないと思います。しかし私たちは過去をまったく振り向かずに生きていけるのでしょうか。一方では、先人の知恵に学びなさい、昔からの伝統を守りましょう、とも言われます。今を見つめ、将来を見据えると

きにも、我々が過去から学ぶことは何もない、ということは実際にはあり得ませんね。こういふとき、昔の人はどう対処したのだろうか、いったい何を考えてああいうことを成し遂げたのだろうか、などと考えることがよくあるのではないのでしょうか。もちろん歴史を学ぶと言うことは、何も自分の生き方に役立つものを見いだしたい、という気持ちからだけではありません。ただ単に、なぜ昔の人はこう考えたのか、なぜあんな事をしたのか、など素朴な疑問、好奇心から歴史を勉強する人も多いでしょう。

私の場合は、最初経済学、経済学史の勉強をしていましたが、もっと生身の人間のことを勉強したいと思い、歴史に進み

ました。日本の近代化について強い関心を持っていましたが、先例となったイギリスの産業革命の時代を勉強したいと思い、イギリスに留学しました。イギリス史のことをあまり勉強せずにイギリスに行ってしまったので、苦労をしました。基礎的な知識は何をするにも必要だと思っています。大学の授業は、いろいろな知識をすでにみなさんがある程度身につけておられることを前提に話が進むことがあります。よく分からないことがあれば、お答えしますが、ご自分でもまず調べてみましょう。歴史を学ぶことで、きっとさまざまな新しい世界が広がるはずです。



人の生活と法を学ぶこと

社会と経済 教授 中嶋 士元也
政策経営プログラム

とに分かれています。私たちの日常生活に直接関連するのは実定法ですが、その正しい理解のためには基礎法に関する成果の利用も要求されます。つまり、この両者は深く関連しています。私は、これまでこれらのうちの「実定法学」の分野を専攻してきました。そのうちでも私が中心的に勉強してきたのは、財産の取引契約や雇用関係や社会的相互扶助の制度や医療契約等をめぐる法律問題です。

いずれにせよ、「法学」はなんとなく難解で屁理屈の多い分野として印象づけられており、

世の人々に敬遠されがちであることも確かです。しかし、人間の日常生活は常に法律と隣りあわせて営まれています。つまり、平穏な日常生活を営むために法は何人にも不可欠なものです。しかも「法学」は多くの場合一定の「約束ごと」や一定の「型」ででき上がっており、それら約束ごとや型を把握する努力さえすれば、法は誰にも理解の可能な分野です。私は、放送大学においても、そのような観点からの講義を行っていきたくて考えております。事の成否はかかって皆さんの努力にあります。

私は、「法学」担当の教師として着任しました。通常「法学」という場合、現在の日本に存在する種々の法律(例えば、憲法、民法、刑法といった)の正しい解釈適用を研究する「実定法学」と、「そもそも法とは何か」といったより普遍的な法の哲学や法の思想を研究する「基礎法学」



実現可能な政策提言を

社会と経済 教授 高木 保興
政策経営プログラム

思えるからです。たとえば、構造改革によって一時的に失業率が上昇する可能性が多いときには、先進国では実施可能でも途上国では当初の効果を期待できないことが多い。それは、途上国では先進国のように家計の蓄えが大きくなり、失業保険のような社会的安全ネットの構築も十分できていないから、暴動が発生して経済社会を不安定にしてしまうことがあるからです。

途上国の現場を見る機会があれば、それが農業であれインフラであれ教育であれ、できるだけ参加し、複数の観点から問題

に接近し、実現可能な改良策を検討したい。ミクロの研究者が多ければマクロの視点から問題を提起し、マクロの意見が多ければミクロベースでの実現可能性について反論を試みたい。

放送大学では、途上国に関心を持つ学部生にはより広い知識を提供して理解を深めることを第一の目標に、大学院生とは、国際協力の現場で働く人たちも少なくないので、複数の観点から問題に接近するにはどうすればいいかを主要な論点として議論を戦わせてみたい。

総合文化プログラムの中の「国際社会研究」担当として着任しました。専門は開発経済学ですが、できるだけ経済学の枠を超えた考察を心がけています。といいますのは、開発途上国では経済問題だけを切り離して議論することは現実的な解決に繋がらないことが多いように



自分発見のアカデミック「情報コミュニティ」づくりを

社会と経済 教授 船津 衛
政策経営プログラム

著しい21世紀の社会において、現代人はいかに生きていくべきなのか、その自我のあり方はどのようなものであるのか、そして、そのゆくえはいかなるものであるのかについて、皆さんとともに考えていきたいと思いません。

また、放送大学における学生の皆さんとのコミュニケーションのあり方としまして、マスとパーソナルの両方のコミュニケーションをうまく結びつけ、文字と言葉と映像のそれぞれの特徴を生かしたコミュニケーション

を生み出していきたいと思っております。

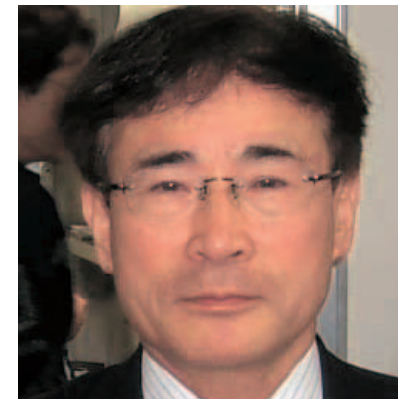
そして、そのことによりまして、場所や世代を超えた、アカデミック「情報コミュニティ」の形成を目指したいと考えています。

そのコミュニティにおいては、常に問題意識を持ち、困難な状況に対しても積極的に対応して、その状況を乗り越え、新しい自分発見ができるようになればと考えております。

どうぞよろしくお願い致します。

私の専門は社会学です。とくに自我論とコミュニケーション論に関心をもっております。放送大学では、今年度から、『21世紀の社会学』(共通科目、テレビ)、『自我の社会学』(専門科目、ラジオ)の授業を担当しております。

高齢化、少子化、情報化、グローバル化など、変化・変動の



熱帯での生物の実態を調べながら

自然の理解 教授 松本 忠夫
総合文化プログラム

アリ類です。かつて私はそのキノコシロアリ類の採餌や呼吸速度を具体的に現地で測定し、落葉、倒木等の分解に大きな機能を果たしている実態を明らかにしました。シロアリの大きなコロニー内では、百万匹ものワーカーと兵隊カーストが生息しています。すべてが一対の親(女王と王)の子どもたちです。このような生活様式の昆虫を、「社会性昆虫」といっていますが、いわば、コロニーは「大家族」であり、「超個体」です。個体間の関係は極めて密接で、体外に分泌されるフェロモンによって個体の成長が影響を受

け、カースト分化が行われていますが、まだ謎が多く、また、生活史(生活の内容)やカースト分化の様相について、未知の種類がほとんどです。近年、熱帯の原生自然は急速に失われつつありますが、私はこれからも現地を訪れ、多様なシロアリ類の生活実態を明らかにし、カースト分化の謎を解明すべく飼育実験をしたいと思っています。

研究面ではこんな私ですが、その経験を生かして「生命とはなんぞや」そして「生命の環境とはいかなることか」を、学生の皆様方と広く探求して行きたいと思っています。

熱帯雨林は陸上で最も生物多様性が大きいところです。そして、私が長年研究してきたシロアリ類も多数生息していて、彼らは地球の陸上動物の中で最も現存量が多いものです。また、落葉、倒木、立ち枯れ木などの分解者として大活躍しています。東南アジアでの優占種は、担子菌類を栽培するキノコシロ

現代思想の地平 (05)

この講義の狙いは、現代世界を現在の知の水準において問い、私たちが自分自身の思考において現在の世界を基礎づける。それは、本来の意味において、現代世界を「批判」することでもありません。とは、いったいどのようなことなのかを提示するために、思考のレッスンを行うことにあります。

私たちは21世紀の初頭という見通しのききにくい、歴史的にも政治的にもそして思想的にも困難な世界を生きている。しかし、そのような世界にいま自分たちがいること、いまいちど静かに考え、より深く問い直してみたいと考える人たちに向けて、思想の言葉がいまあらためて語り始められなければならないのだと私は

考えています。私の講義が、そしてこの本が、そのような思想の問いに「一歩でも近づくためのエチュード（練習）なのだ」と思っていただけたら、講義の講師として、それほど幸せなことではありません。

それぞれの講義は、毎回ひとつの問題系を取り上げて、現代思想がどのような問いを立てているのかを考えてみるスタイルをとっています。

導入につづいて、前半部は基礎理論の紹介に当てられ、次第に欲望や権力や社会さらにメディアやコミュニケーションといった応用的な問題領域へとすすみ、現代世界のアクチュアルな問題を考えることを試み、そして最後に、全体的な総括と展望をおこなうという

東京大学 大学院教授 石田 英敬
(放送大学客員教授)

展開が予定されています。

ここで私が考えようとしている問題の核心は、どのようにして「自分自身の問い」として「自分がいま生きている世界」を問うことができるのか、その思想の言葉、思考の条件、そして探究の方法とは何かということにあります。



看護学概説 (05)

看護学は、常に現在を生きる人々と共に在り、生活を営む人々の健康問題に関わり、人々の身体的にも心理・社会的にも、さらには霊的（スピリチュアル）にも安寧な状態を創り出すための看護知識と看護技術・態度を向上させるよう研究に取り組み、科学的実践を旨とする学問である。

近年、科学技術の進歩や医学の発展はめざましく、また、豊かな人間性や優れた人権意識、明確な目的意識などに根ざした医療人の資質が求められている。看護学は、医療を受ける人々の最大幸福を考える立場から、常に新しい知識や技術がどのような変化を医療の場

にもたらし、医療の利用者に変化を生じさせたかを吟味し、ケアの質の向上に反映させてきている。

この科目では、現在を見据えつつ、将来展望に立った看護学を概説し、学習者が主たる概念や諸理論に関わる先進的な知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護に対する理解を深め、自らの看護観を確かなものにしていくことをねらいとしている。この科目は、担当する講師が知恵を絞って今日的看護のエッセンス（重要テーマ）を抽出し、厳選して15の章としている。各章ごとに担当講師の思いが込められているので、講師と対話するつもりで受講していただ

生活と福祉 教授 佐藤 禮子

ければ幸甚である。

看護学を自分なりに再構築したいとお考えの方にも、教養として看護学に興味をお持ちの方にもお役に立てる内容であることを期待している。



日本国憲法 (05)

日本国憲法は、いま、大きな曲がり角にあるといわれる。その意味は、人々が抱いている「憲法」のイメージによってずいぶん異なるが、第9条の規定に代表されるように、憲法とは理想を書き表すものだという印象をもっている人は、かなり多いようである。

もちろん、その印象にはそれなりに根拠があるが、この場合の「憲法」は、全体で103か条からなる現在の憲法典を指している。ところが、国会・内閣・裁判所といった国家機関を円滑に動かす、国民の権利利益を確実に保障するためには、憲法典の規定だけではまかないきれず、国政の内容や組織・運用などについての多くの規

範が必要となる。そこで、こうした多くの規範までを含めてみる場合も、しばしば憲法と呼ばれる。

実際、この十数年来のさまざまな出来事・制度改革などによって、日本の政治・統治構造のあり方は大きく変わり、権利保障をめぐる立法や判例も急速な展開を見せている。これによって日本国憲法の姿は、かつてとは大きく違ったものになっている。

この講義のねらいは、比較憲法史や憲法の一般理論などの成果を踏まえつつ、主として現行の日本国憲法が定めている統治構造と権利保障の内容について、主要な論点を取り上げながら検討を加えることによって、日本国憲法、そし

京都大学 大学院教授 大石 眞
(放送大学客員教授)

て憲法一般に対する理解を、より深めることができるようにすることにある。この講義を通して、日本国憲法をめぐる内外の新しい動向に対応した「生きた憲法」を伝えることができれば、幸いである。



応用心理学 (05)

21世紀は“人間の時代”といわれ、人文系の領域はもちろんのこと、理工系、医歯薬系、社会科学系等々の幅広い領域において“人間中心の発想”が不可欠の状態となってきている。

心理学は人間の精神面を取り扱う学問であり、「応用心理学」は特に、他領域、社会生活と接触し社会貢献に努めている分野である。

ところで、現状は応用心理学から臨床心理学、教育心理学、犯罪心理学、等々の専門分野が分派・独立し、応用心理学の全体像が見

えにくくなってきている。

学問の学際化が進みつつある現在、応用心理学を源とした各専門分野がそれぞれに活動し、また、類似の他の学問分野と協同・融合して行くのは、それなりに望まれることではあるが、それだけに、出発点となった本来の「応用心理学」が堅固たる全体像を示し、その役割、実績を明示し、共通する知見を明確にしておくことが重要と思われる。この科目「応用心理学」はそのような方向付けの中に位置し、多くの受講生に理解を求め、応用心理学に親近感を抱き、

中京大学 教授 神作 博
(放送大学客員教授)

これに関する知見・技術等を習得し、今後、社会の種々なる場所において活躍してほしいと願い、ここに開講するに至った次第である。



財政学 (05)

21世紀に入っても公債残高は増加する一方であり、わが国の財政は危機的な状況にある。また、急速な少子高齢化社会では財政需要も増加する。大量の公債発行と巨額の財政赤字の処理、公共投資や社会保障などの歳出の見直し、消費税の引き上げ問題に象徴される高齢化・国際化社会における税制改革、「三位一体改革」として行われている地方分権と両立できる国と地方の財政制度の構築、などさまざまな現実の財政問題に興味のある人も多いだろう。本講義は、こうした今日的な財政問題を考える際の理論的な糸口を提供することを目的としている。

本講義の特徴は以下の点にあ

る。第1に、なるべく現実の財政問題を例示としながら、標準的な財政理論を用いて議論を展開している。現実の財政問題を考える際でも、理論的な枠組みをきちんと理解することは重要である。財政学も経済学の1つの応用学問であるから、経済学の基礎知識(ミクロ経済学とマクロ経済学)をふまえて、財政理論も組み立てられている。本講義は、そうした財政理論の基本的な考え方をわかりやすく説明している。したがって、本講義と平行して経済学の基礎知識(ミクロ経済学とマクロ経済学)を学習することで、財政学の理解もより進むことが期待される。第2に、本講義を受講することで、

東京大学 大学院教授 井堀 利宏
(放送大学客員教授)

日本の財政の全体像が頭にはいるようになっている。現実の財政制度や財政問題は複雑な点も多いが、本講義はその重要な点をほぼカバーしている。



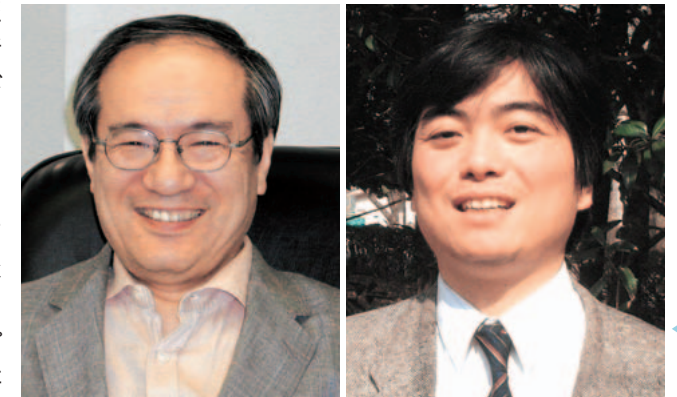
情報技術と社会 (05)

情報技術(Information Technology)は、21世紀の社会を築く基盤となっているが、その本質については専門家を除いて、必ずしも深く理解されているとは言いがたい。コンピュータと情報ネットワークを支えるデジタル技術について、ものごとの本質を見極める時に役立つ知識を選び出して、その理解を深め、具体的な応用例について学ぶのが、この科目の目的である。さらに、これからの社会がどのように変わって行くか予測して、それに対処するには人々が何をしなければならないかについても考察する。

19世紀から20世紀にかけて必要となった大量の計算需要に応える技術として、コンピュータが生

まれた。こうして生まれたコンピュータが半導体の技術進歩によって小型化し、どこでも必要な所に使われるようになったことから、目に見えない所でコンピュータが社会を支えるようになった。自動車はもとより、ジャンボジェット機からカメラに至るまで、いたる所にコンピュータが内蔵されている。また、社会的なシステムについても、銀行を始めとしてコンビニのような日常的に利用するものまで、コンピュータなしでは存在できないものばかりである。

情報技術の本質的な部分を人間や社会との関係から見つめ直して、21世紀の社会を主体的に生きて行くための、ものの考え方についてあつかう授業である。



大岩教授

辰己助教

自我の社会学 (05)

こんにちは、「自分が何だかよくわからない」という「アイデンティティの喪失」がよくいわれます。「自我の社会学」は、このような「アイデンティティ」、つまり「自分とは何か」という「自我(self)」の問題を社会学的に考察しようとするものです。

自我は、これまで、孤立したイメージで考えられてきました。しかし、自我は、本来、社会的なものです。人間において、自分のことは自分一人ではわかりません。他の人間を通じて初めて自分がわかるようになります。自分の顔は自分では直接にはわかりませんの

で、鏡を見ることによって知ることが出来ます。それと同じように、人間の自我は他者を鏡として、鏡としての他者を通じて知ることができるようになります。

人間の自我は孤立したものではなく、常に他の人間とのかかわりを有しており、自我は社会的である。それが「自我の社会学」のテーマです。

そして、自我が他者とのかかわりにおいて社会的に形成される過程を具体的に明らかにすることがその内容となります。

この講義によりまして、人間の自我のあり方について、さまざま

社会と経済 教授 船津 衛

な見方を知り、現代人の自我の様相を理解するとともに、自分自身の自我のあり方について考えるきっかけになればと思っています。



20世紀の中国文学 (05)

20世紀の中国文学史とは、魯迅(1898~1936)・莫言(1955~)に至るまで、越境の文化史でした。現代中国文学のばあい、越境とは外国への留学や亡命を意味するだけではありません。全ヨーロッパよりも大きな人口と面積とを有する中国では、現代文化は主に上海と北京という新旧対照的な南北二都を中心として発展してきました。越境はこの二都物語としても進行しているのです。

本講座では香港と台湾の文学についても各一章を割いております。アヘン戦争後にイギリス植民地となった香港は、100年以上も移民の街でしたが、1970年代以後、香港人意識が芽生え、「香港

文化」が生まれています。17世紀のオランダ統治以来、台湾では清朝、日本、旧・国民党と外来政権による支配が続きましたが、台湾人は越境してくる外来文化を積極的に受容しつつ自立を求め、1980年代には民主化を達成したのです。そのような台湾人を支えてきたのが台湾文学でした。たとえば女性作家の李昂(リー・アン、1952~)は台湾アイデンティティとフェミニズムという二重の課題を背負っているのです。

いっぽう日本人はこの100年間、どのように中国・香港・台湾の同時代文学を読んできたのでしょうか、そしてこの10年あまりの中国語圏における村上春樹ブームとはどうして生まれたのでしょ

うか。このような日中間で相互越境する文学についてもお話ししたいと思います。本講座では20世紀の中国・香港・台湾の文学を学びつつ、現代中国語圏の人々の情念と論理が形成されてきた歴史を振り返ってみましょう。



東京大学 大学院教授 藤井 省三
(放送大学客員教授)

統計学とその応用 (05)

高度科学技術社会においては、さまざまな大量の情報やデータが氾濫しているため、これらを目的に応じて効率よく要約し、真に有用な情報を抽出する方法論が必要である。統計学やデータ解析はそれに応える学問分野であり、その必要性は今後ますます増大すると考えられる。統計的思考方は、コンピュータ・リタラシーとともに、現代人の素養として必須のものとなっていくであろう。

大量で複雑なデータから有用な情報を抽出するには、統計学の基礎的知識の理解を通して、統計的なものの見方・考え方を習得しておくことが重要である。また目的

に応じてデータを収集し、データをよく観察してそれがもつ特徴を精査・抽出し、適切なモデルや手法を適用して解析を行うというデータ解析についても、その考え方や基本的な手法を習得しておくことが望ましい。そこで本科目では、一通りの統計学の基本事項について解説すると共に、代表的なデータ解析の手法についてもかなりの程度までの解説を行った。また、統計学の効用と限界について正確に認識し、注意深く議論を進める訓練も必要であるが、この点についても折に触れ注意を喚起した。

繰り返し学習を行い、例題を解くなどして理解を深めてもらいた

千葉大学 教授 田栗 正章
(放送大学客員教授)

い。またパソコンの統計パッケージを適用して現実のデータの解析を行い、結果の持つ意味を考えてみることも助けになるだろう。本科目がその一助になればと願っている。



生命と金属の世界 (05)

約46億年前に誕生した地球に、約38億年前には原始生命が海洋で誕生し、約28億年前に生物による光合成が始まったと考えられています。この地球システムを、化学で扱う最小単位である元素の立場から、元素の分布と動態を考える「地球システムの全元素化学」の構築は重要な学問分野であります。なぜならば、地球にも、海洋にも、そして生物にもすべての元素が含まれているため、このような考え方を「拡張元素普存説」として提唱しています。この拡張元素普存説の究極の研究目的は、生物細胞1個の中にすべての元素

が存在すること、すなわち「細胞小宇宙説」の実証です。

私達の身体の中にもすべての元素が含まれていますが、金属元素は極めて微量です。しかし、この微量の金属はビタミンやホルモンとともに、生体機能の発現と生命の維持に非常に重要な役割を果たしています。生体中の微量金属は従来「ミネラル」と考えられていたものですが、最近の計測技術の進歩により、ミネラルの成分を全元素の観点から考え、私達の健康、ストレスや生活習慣病、並びに環境問題などとの関連で考えることができるようになりつつありま

名古屋大学 大学院教授 原口 紘丞
(放送大学客員教授)

す。現代病の根源である微量元素欠乏症と食生活についても言及する予定です。人間と地球の健康を考える化学として、受講していただければと思います。



言語文化研究 (05)

現代日本語の様相

現在は日本語ブームだそうである。確かに書店には日本語に関する本が並んでいる。手軽な新書版が多く、一般の読者を対象としていることがわかる。内容もレベルも千差万別であるが、とにかく、自国語に関心を持つというのは望ましいことであろう。

近ごろ日本語が乱れていると嘆く声が聞かれる。特に若者ことばを中心に変化が著しい。しかし、人々の思想を支える言語の根幹の部分はそう簡単に変わるものではない。変わりゆくものと変わらざるものと、現代日本語の姿をとらえようとするのが、本科目の目的である。ただ、総花的に全体を概

観することは避け、的を絞って掘り下げたいとの考えから3人の担当者がそれぞれ専門分野のテーマを扱うことにした。

語彙の面からは、音象徴語・語構成の姿・意味の分析など、談話構造の面からは、授受表現・指示詞・省略表現など、言語の変化の面からは、発音・若者ことば・新型敬語・動詞活用の単純化など日本語の独自性に注目したテーマと

総合文化プログラム 教授 姫野 昌子
東京女子大学 元教授 上野 田鶴子
(放送大学客員教授)
明海大学 教授 井上 史雄
(放送大学客員教授)



姫野教授 上野元教授 井上教授

社会心理学特論 (05)

発達・臨床との接点を求めて

改訂版のこの科目では、副題を「発達・臨床との接点を求めて」として、全体を3部構成とした。第部「社会心理学の視点」では社会心理学の入りくんだ流れに順序をこころみ、次いでパーソナリティ、社会・集団、文化といったビッグワードの社会心理学的意味を順次解説する。第部「社会心理学の展開」では、人の発達と時代史・地域史の交差上に展開する社会化過程を共通のテーマにして、職業的社会的化における同郷ネットワークの機能、南米日系移民の生活ストラテジーと日本への還流現象、企業組織に生きる個人のキャリア発達、非行・犯罪を理解

するための基本的視点と課題、さらに遊びとしての逸脱のケースとして暴走族をとりあげた。

第部では、臨床心理学コースのための教材であることを念頭において、「社会心理学と臨床心理学の接点」とした。そこでは地域のヘルスケア・システムと住民の対処行動、伝統的な祭りに隠されているヘルスケア機能、シャーマニズムの癒し、犯罪の被害者への援助と災害の被災者支援をとりあげた。社会心理学と臨床心理学のインターフェイス(境界領域)である「臨床社会心理学」

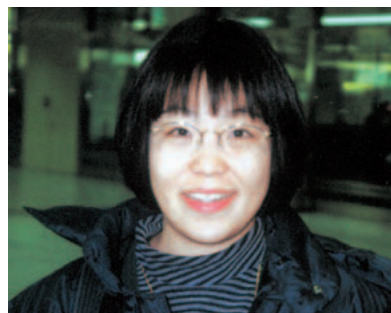
が近年活況を呈している。その動向を紹介し、TVではゲストを招いて研究例をもとにモデルを提示することで締めくくった。

本講義の特徴は、自らのフィールドワークでの知見や映像にもとづいて分担講師が教材を組み立てていることにある。

放送大学 副学長 大橋 英寿
臨床心理プログラム
岩手県立大学 教授 細江 達郎
(放送大学客員教授)



大橋副学長 細江教授



港町から経営を考える

産業と技術 助教授 原田 順子

協調が組織の成長を助ける。という好循環が生じたと説明されてきた。

しかし、バブル経済崩壊、旧共産圏の世界市場参入による競争激化、団塊の世代が年齢とともに高賃金になったこと等の理由から、日本企業は人事制度の大きな変革の時を迎えた。

自分の仕事に対する評価に興味のない人はいないであろう。したがって、評価システム的设计は組織にとって重要事項であることは確かである。私は賃金制度を中心に研究を進めてきたが、あらゆる人事管理、経営管理の工夫にも興味がある。

そもそも経済活動というものに興味を持ったきっかけは、子供の頃の体験にあると思う。私の学校の窓からは横浜港が一望できたのだが、港を指して先生が「我が国は資源が乏しいから、貿易によって外貨を稼がないと、石油が買えなくなり、今の生活は維持できなくなる」と言われたことが深く心に刻まれた。あの時、窓から船や港が見えなければ、この一言はそれほど記憶に残らなかったであろう。これも何かの縁で、現在、私の研究室は横浜にあり、私は相変わらず日本企業の競争力が気になり、その源泉となる「何か」を探っている。

1980年代以降、日本の経営は成功事例として世界の注目を集めた。長期雇用、年功的人事制度、企業別組合が三大特徴であると言われてきた。この特徴は社員の組織に対する求心力と生産性を高める要因であると考えられる。長期雇用を前提に、企業は積極的に業務上の訓練を行う。社員は年功的な人事制度の中で、和を尊びつつ協力して職務を遂行する。そして、労使の

学習センターの整備

茨城学習センターの新学舎紹介

—茨城の新しい生涯学習と文化交流の中心に—

茨城学習センターは平成9年に設立されて以来今日まで7年間、茨城大学の学舎に仮住まいしてきましたが、このたび長い間待望していた独自の学舎が新築されました。このため3月26日に新学舎に引っ越し、4月1日に始まる新学期からは新学舎で勉強することになりました。学生・教職員みんなが待っていた新学舎は、やはり茨城大学のキャンパス内に建築され、茨城大学とは別の、学習センターへの校門から入ることができるようになりました。新学舎は穏やかなクリーム色の壁の外観で、建物の2階と3階を学習センターが使用し、1階は茨城大学が使います。きっと、皆様に満足



していただけのものだと思います。

新学舎の2階は、事務室、視聴学習図書室、学生交流

ラウンジ、客員教員室、所長室などがあります。3階には、3つの講義室と実習室、ITラウンジなどが作られました。図書室や学生交流ラウンジ、ITラウンジ等はいずれもLANの接続ができるようになっていて、学生の皆さんがコンピュータを利用しやすいように作られています。講義室や視聴学習・図書室など、多くの学生の皆さんが利用する場所では、室内は柔らかい光が行き渡るように工夫されていて、きっと満足して勉強していただけだと思います。面接授業、単位認定試験、その他クラブ活動などは、この新しいセンターの施設で行います。

放送大学は生涯学習機関のひとつとして、広く社会人に大学教育を提供する目的で設立された正規の通信制大学です。「いつでも、どこでも、だれでも学べる放送大学」という方針で、実にさまざまな年齢や職業の人々が学生として学んでいます。茨城学習センターの新しい学舎で皆様にお会いでき、皆さんと一緒に学べ、交流がさらに深められ、この地が茨城の新しい生涯学習と文化交流の中心になることを教員・職員一同期待しております。

茨城学習センター所長 塩見 正衛

教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生募集

平成17年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

平成17年6月15日(水) ...平成17年度第2学期学生募集要項配布開始

| | |
|-----------------|-----------------------------|
| 出願期間 | 平成17年6月15日(水)~平成17年8月31日(水) |
| 可否通知等 | 平成17年8月上旬~平成17年9月中旬 |
| 学費の納入 | 平成17年8月上旬~平成17年9月末 |
| 入学許可通知・印刷教材等の配送 | 平成17年8月上旬~平成17年10月中旬 |
| 授業開始 | 平成17年10月1日(土) |

- ・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお勧めいただくようお願い申し上げます。
- ・また、平成17年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成17年度第2学期以降も引続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学金が割引になります。
- ・出願締切日は平成17年8月31日(水) 必着 です。

大学院文化科学研究科修士全科生募集

放送大学大学院文化科学研究科では、平成18年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

平成17年6月15日(水) ...平成18年度修士全科生学生募集要項配布開始

| | |
|-----------------|---------------------------------------|
| 出願期間 | 平成17年8月25日(木)~平成17年9月14日(水) 18:00(必着) |
| 第一次選考(書類審査) | 平成17年9月下旬~平成17年10月上旬 |
| 第一次選考(書類審査)可否通知 | 平成17年10月7日(金) 発送 |
| 第二次選考(小論文試験) | 平成17年10月23日(日) |
| 第二次選考(面接試問) | 平成17年11月12日(土)~平成17年11月13日(日) |
| 可否通知等 | 平成17年12月16日(金) 発送 |
| 学費の納入 | 平成18年3月上旬~平成18年3月中旬 |
| 入学許可通知・印刷教材等の配送 | 平成18年3月上旬~平成18年3月末 |
| 平成18年度授業開始 | 平成18年4月1日(土) |

- ・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。
- ・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方に対し、入学者選考を行った上で入学を許可します。
- ・修士選科生・修士科目生として修得した単位は、本学大学院に修士全科生として入学した場合、修了に必要な単位として通算される場合があります。

平成17年8月1日(月)~8月10日(水)までに出願資格事前審査があります。詳細は募集要項をご覧ください。
平成18年度学生募集から出願期間が今までより1週間長くなりました。

来学期も引き続き学籍のある在学学生の方は、「科目登録申請要項」で7月27日(水)消印~8月10日(水)必着までに科目登録を行う必要があります。(科目登録申請開始の8日前になっても関係資料が未着もしくは紛失した場合は大学本部等にお問い合わせください。[詳細は「学生生活の栞」をご参照ください])

平成17年度第1学期限り閉講科目について

次の科目は、都合により、平成17年度第1学期限りで閉講することとなりました。

あしからず、ご了承ください。

なお、平成17年度第2学期の再試験は実施いたしません。

本学の再試験制度により、平成17年度第1学期に科目登録された方で、次の事項に該当する方は第2学期において再度受験することができます。

第1学期の通信指導問題が不合格又は未提出の方で、引き続き在籍していれば、翌学期に限り改めて通信指導を受けることができ、これに合格すれば単位認定試験を受験することができます。また、第1学期の単位認定試験が不合格又は未受験の方で、引き続き在籍していれば、翌学期に限り単位認定試験を受験することができます。

| 科目コード | 学部/院 | 科目名 | 再試験日・時限 |
|---------|------|--------------------------|-----------------------------------|
| 1827618 | 学部 | 生徒指導('03) | 平成18年1月28日(土) 3時限 11:35~12:25) |
| 1836811 | 学部 | 雇用・福祉・家族と法('03) | 平成18年1月26日(木) 8時限 17:55~18:45) |
| 8930120 | 大学院 | 法システムII('02) -市民活動と法- | 平成18年1月31日(火) 1時限 9:15~10:05) |

編集後記

本号には、学位記授与式での一連の祝辞や答辞が載せられています。この中の教養学部総代答辞は、私が卒業研究を指導した学生さんのもので、身近に彼女の苦勞を多少は知っているだけに、私もまた、大いなる感慨をもって卒業式に臨みました。

毎年の卒業式でいつも感じるのですが、本当に放送大学の学生さんは、真摯な方々であり、そしてその上、人生を生きてゆく大きなエネルギーをお持ちの方々です。総代答辞にも記されているように、私のゼミには、年若い親の介護のために何度も飛行機で行き来しながら大変立派な論文を書かれた方や、フランスの相当に交通の不便なところにある芸術作品を見るために、ご主人がレンタカーを運転されて現地まで行かれた方がいらっしゃいました。

本号をお読みの方々も、勉学に大いに励んで下さい。アリストテレスも述べているように、全ての人間は生まれつき知ることを欲しているものであり、知の喜びに限界はないのです。(青山昌文)

放送大学研究年報オンライン版の公開について

「放送大学研究年報 第22号」が刊行され、インターネットでもご覧いただけるようになりました。放送大学ホームページでの閲覧の手順をご説明します。

放送大学のトップページ (<http://www.u-air.ac.jp/>) の左側にある、「施設案内」を選びます。「附属図書館」と「セミナーハウス」の2つのメニューが表示されますので、「附属図書館」を選んでください。すると、附属図書館の施設案内のページになります。概要説明の下、「機能」のすぐ上にある「附属図書館ホームページ(新規ウィンドウ)」を選ぶと附属図書館のトップページ (<http://opac.u-air.ac.jp/top.html>) へ飛ぶことができます。この中の「電子ジャーナル/データベース」の下に、「放送大学研究年報」がありますので、こちらから研究年報を閲覧することができます。なお、各記事の本文はPDFファイルになっていますので、表示するためにはAdobe®Reader™が必要です。インストールされていない場合は、放送大学トップページの右下にダウンロードページへのリンクがありますので、ご利用ください。

大学通信専門委員会

(平成17年度)

| | | |
|------|-----|-------|
| 委員長 | 教授 | 杉本大一郎 |
| 副委員長 | 同 | 徳丸吉彦 |
| 委員 | 同 | 中谷延二 |
| 〃 | 同 | 滝口俊子 |
| 〃 | 助教授 | 高橋和夫 |
| 〃 | 同 | 齋藤正章 |
| 〃 | 同 | 杉浦克己 |
| 〃 | 同 | 大橋理枝 |
| 〃 | 同 | 吉岡一男 |

(編集事務担当
教務部学生サービス課)

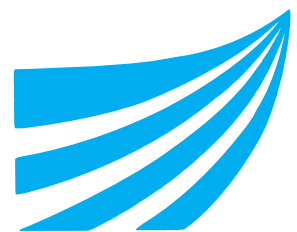
ご意見やご感想をお聞かせ下さい。
editor@u-air.ac.jp

全科履修生・選科履修生・ 修士全科生・修士選科生の方へ

来学期(平成17年10月から平成18年3月)も在学期間がある方は、来学期のための科目登録ができます。科目登録申請要項は7月上旬に郵送いたします。この件に関するお問い合わせは、全科履修生・選科履修生・修士選科生の方は大学本部学生サービス課、修士全科生の方は大学本部修学支援課までお願いいたします。

申請期間

平成17年7月27日(消印)~8月10日(大学本部必着)



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp>

ISSN 1343-3369

R100